

高齢者総合福祉施設 風早の家

令和 4年度 第2回運営推進会議 議事録

開催日時	令和 4年 7月 28日 (木)
開催場所	高齢者総合福祉施設 風早の家 なないろカフェ
出席者	【ご利用者】 0名
	【家族代表】 徳永近義氏 (特別養護老人ホーム 風早の家 1名)
	【地域包括センター 北条】 野田由美氏 1名
	【松山市役所 介護保険課】 渡部桂子氏 1名
	【評議員】 田村光子氏 【法人理事】 小林厚子氏・森 一世・西田あゆみ
	【地域の方】 豊田克文氏(菟木地区町内会長) 濱元昭子氏 (民生児童委員)
	【事業所】 (施設長) 近藤 浩之 (風早の家) 梅田 愛 ・ 中川 邦彦 ・ 仲渡 博美 (かしま) 中山 幸恵 (にじいろ) 杉森 理代 (かなさんどう) 荻山 英治
配布資料	あり

高齢者総合福祉施設 風早の家 全体会

開会あいさつ (施設長 近藤浩之)	<p>・ 今回のコロナ禍により、2年間運営推進会議が開催されず文書開催を行って行っていました。やっとコロナ感染が落ち着いて開催が可能となった矢先、コロナが再流行している状況です。この2年間で運営推進会議のメンバーにも変更があり、施設の中を見た事がない方もいらっしゃいます。今後は地域の方にも施設を見てもらい、活発な意見交換を行っていきたいと考えております。</p> <p>まずは自己紹介をお願いできればと思います。宜しくお願いします。</p>
----------------------	---

## 特別養護老人ホーム 風早の家

(地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護) 運営推進会議

事業所からの  
状況・活動報告

### <利用状況>

○特養 風早の家

入所者数 28名 (定員 29名 : 7/28 1名入所予定)

男性 6名・女性 22名

(要介護度) 介護3 : 7名

介護4 : 13名

介護5 : 8名

○ショートステイすぼき

・受入地区 : 苞木・鹿峰・鴨之池・小川・光洋台・柳原・夏目

河野高山・河野別府・高田・正岡神田・八反地・中西内

北条・北条辻・堀江町・山越・鴨川・吉藤・東長戸・菊間

(要介護度) 支援1 : 0名

支援2 : 2名

介護1 : 4名

介護2 : 4名

介護3 : 5名

介護4 : 3名

介護5 : 5名

・障害区分(共生型利用者) … 利用なし

・稼働率 : 6月 75.2% (平均利用者数 : 7名)

7月 69.5% (平均利用者数 : 6名)

### <活動報告>

特養風早の家・ショートステイすぼき 近況

6月・7月も引き続き新型コロナウイルス感染対策は継続して実施しておりますが、施設でのご家族の面会や外部機関との関わり方等、国や都道府県のガイドラインも参考にしながら、その都度具体的な検討を行っております。

面会方法については、長らく玄関ドア越しまたは居室窓越しでのみで行っていましたが、事前予約・人数制限(2名まで)・短時間(15分程度)・コロナワクチン3回接種済のご家族については、ご希望があれば施設内(別室)での直接面会を開始しました。現在も継続して行っており、ご利用者様・ご家族様より『直接会うことができる』とは思っていなかった。本

当に嬉しい』と、多くの声を頂いております。今後も、感染状況や施設内の状況に合わせ、可能な限り柔軟に対応して参ります。

ご利用者様の状況については、梅雨が終わり暑さが厳しくなる季節、熱中症や脱水等、日々の生活になお一層の配慮や、体調の変化に対する細やかな対応が必要となる時期であり、ご利用者様の様子については各職種が情報を共有し、連携し合いながらご利用者様の生活支援を行っております。なかなか外出もままならない時期ですが、ご利用者様の要望があれば、状況に応じ、可能な範囲で個別での外出支援（一時帰宅等）も感染対策をとりながら行っております。また、季節ごとの壁飾りなど、ご利用者様とユニット職員で一緒に作り上げたりなど、少しでも日々の生活の中に楽しみも取り入れながら、職員も一緒に楽しみ、過ごしていきたいと考えております。

7/1には特養利用者様を対象に、参議院議員選挙の不在者投票を施設内にて行いました（希望者 11名）。

ショートステイについては、6月・7月は農繁期と重なり、毎年ご利用者様が多い時期となります。おかげ様で多くのご相談・ご利用があり、ご利用者様お一人お一人の事情に合わせ、ご利用後もスムーズに自宅での生活に移行できるよう、支援の際には気を配り対応するよう努めております。

お問い合わせの中には『施設内を見学したい』との要望も多々あり、現在は玄関先や廊下などから見渡せる範囲での施設の見学を行っております。実際に見学され利用を決定される方も多く、今後も引き続き実施致します。

共生型ショートステイについても、ご相談があった際には、かなさんどう始め関係機関からの情報をもとに、空室ある限りはお受けする方向で連携を取りながら調整を行っております。

#### ○ミャンマー実習生について

特養風早の家ではピョー・ウェイさん、ミヤ・ニン・シさん2名が7月11日より実習開始となりました。現在日勤帯職員1名が付いて指導を行っています。主にフロア見守りや、日勤帯職員見守りの上での食事介助・更衣介助・移動介助を学んでいます。

かなさんどうではアンさん、ニャンさん、ナーさん3名が実習を開始していますが、その様子について荻山部長よりお願いします。

（荻山部長）：日勤帯勤務で、日本人職員を付けてゆっくり教えています。8月下旬から入浴介助を始める予定。今回の実習生は4期生であり、現在1～3期生の先輩もいるので、先輩に教えてもらいながら学んでもらっています。

文化の違いによりゴミ出しがうまくできなかつたり、自転車の乗り方が危なかつたりするかもしれないので、こちら側でも注意はしますが、気になる事があれば教えて下さい。

○ご利用者様支援内容について

S様 (90) 要介護4 女性

元々、本人様のご主人が特養入所の希望があり、関わりを持つこととなった方です。

関わっていくうちに、本人様には認知力低下があり、次男様には障がいがある事が分かりました。それまでご主人が中心になって何とか自宅での生活を送る事ができていましたが、ご主人が特養入所となり自宅にいとなくなると、元々ご近所付き合いもなかったこともあり、頼れる人がいない状況となりました。

長男様は県外在住であり、帰省は年に数回程度。唯一頼りになるのは本人様の妹様で、何かの折には妹様が協力して下さいました。

その後、更に本人様の認知症が進行し、障がいのある次男様との2人暮らしも難しくなり、どちらにも支援が必要となりました。

関係者で話し合い、当施設内の居宅介護支援事業所のケアマネジャーが本人様を担当してデイサービスかしまを利用することとなり、かなさんどう相談員が次男様を担当して就労支援事業所を紹介する等、それぞれが生活全般の支援を行い、何とか在宅での生活を送っていました。

そんなある日、本人様が脳梗塞を発症し、救急搬送され入院、同時期に次男様も骨折のため入院。次男様は無事退院し、自宅で生活に戻りましたが、本人様の歩行状態は不安定のため車椅子生活となりました。また認知症の著明な進行もあり、在宅復帰は困難と長男様は判断され、退院後はご主人と同じ特養風早の家での生活を希望、入所の運びとなりました。

残念ながらご主人は、本人様の入院中に老衰で亡くなりました。

このケースから分かった事、それは近隣との近所付き合いがない家庭での状況は他者からは分かりにくく、見つけ出すのは困難だという事でした。その方たちの生活が立ち行かなくなる前に、支援の手を差し伸べられたらいいなと思います。

■ 質疑応答

特になし。

デイサービス かしま（地域密着型通所介護） 運営推進会議

事業所からの  
状況・活動報告

<利用状況>

※7月26日現在

1日の利用定員：18名  
利用者登録者数：支援 13名 介護 29名  
男女比：男性 11名 女性 31名  
年齢構成：（最高年齢）101歳 ～（最低年齢）66歳  
要介護度：要支援1－ 6名  
                  要支援2－ 7名  
                  要介護1－ 11名  
                  要介護2－ 6名  
                  要介護3－ 6名  
                  要介護4－ 3名  
                  要介護5－ 3名

<その他利用者様の動き>

6月新規利用者様 … 2名  
7月新規利用者様 … 1名  
入院中 … 2名  
自宅療養中 … 2名  
区分変更中 … 1名（支援→介護）

<日中活動>

○レクリエーション活動

活動中はマスクの着用や道具を共有する時には手洗い・消毒をし、動やレクリエーション活動を行っています。レクリエーションの内容はご利用者様の反応を見ながら、継続して取り組むもの、工夫が必要なもの、やめたほうが良いものなど職員間で話し合いをしています。

ご利用者A様、時々レクリエーション活動後涙ぐみ、デイサービスのフロアから出て行かれるようになりました。その原因は「しりとり」でした。一生懸命考えても他の利用者様のように言葉が出てこない。私にはわからない。ダメだ…。

この方は認知症の症状が進行し、感情のコントロールも難しくなってきました。しばらくの間レクリエーション活動から「しりとり」を外し、様子を見ることになりました。

今現在レクリエーション活動のほとんどが室内で行うものです。これからは天候（特に気温）を考慮しながら屋外の活動（散歩・法人行事）を取り入れていきたいと思います。

・今後の課題

○新現在新規利用者のご紹介をいただいている居宅支援事業所は旧北条市内ばかりです。曜日によっては松山市内までご利用様の送迎に行っているのですが、松山市内の居宅支援事業所に営業を行い新規利用者の受け入れをしていきたいと思います。

○先ほどの日々のご様子報告と内容が一緒にはなりますが、コロナの感染状況・対応策の変化に応じた、デイサービスでの過ごし方や活動内容を職員で案を出しながら考えていきたいと思います。

(中山)：レク活動では、日々新しいものを取り入れたり改善したりしています。その中に、ご利用様が不穏になったレクがありました。それは『しりとり』でした。私には分からない。ダメだ…。と落ち込む様子があったので職員間で話し合い、レクからしりとりを外して様子を見る事になりました。その方は、ご主人と広い住宅地の一角でずっと2人で生活しておられました。認知症が進行し、2人での生活自体が難しくなりつつありましたが、それまで疎遠だった息子さんがそれを見かねて積極的に関わるようになって、何とか精神的にも落ち着いて生活できるようになりました。また息子さんから相談事の連絡がデイサービスに頻繁に入るようになり、こちらからもアドバイスをさせてもらっています。今後もデイサービスを利用されている方一人一人に向き合い、寄り添える場所にしていきたいと思っています。

Q (豊田氏)： 予定表にある木曜日のとくし丸とは何ですか。

A (中山)： 移動スーパーの事で、車に食料品などを乗せて定期的に団地や個人宅を巡回してくれるミニスーパーです。

Q (小林氏)： 他のデイに比べてこういう所に特徴があるよというものはありますか。

A (中山)： 相談内容の中には短時間の利用を希望される方があり、利用者様によってはお風呂だけ入る、またはお風呂と昼食を摂ったら帰るという方もおられます。そういう方も積極的に受け入れて行きたいと考えています。ですがそれをする、小刻みに送迎を行う事になりバタバタと落ち着かないので、朝

から夕方まで過ごされる利用者様とはゆっくり関われるよう配慮していきます。

Q (小林氏) : 支援 1 からデイ利用されている方がおられますが、レクリエーション予定表のプログラムでは要介護度に分かれたものが提供できていますか。

A (中山) : 木曜日は比較的支援の方、女性の方が多いので、小物作り等を行っています。また男性が多い曜日は体を動かすレクをしたり、しりとりが苦手な方にはパズルをして頂いたり、レクに拒否的な方はゆっくり過ごして頂く等対応しています。

Q (豊田氏) : 壁面作りがいいなと思いますが、レクリエーション予定表に入っている日数は少ないように思います。

A (中山) : 予定に入れてはいませんが、午前中材料作りを毎日利用者様がして下さいます。「今日は仕事ないの？」等。指先がうまく動く利用者様、動かない利用者様がおられるので、うまく振り分けてやって頂いています。

Q (豊田氏) : 協力し合って作り上げるのはいいと思います。

Q (田村氏) : デイの昼食を摂るために行くという方もおられますよね。

A (中山) : はい、そうですね。

## 小規模多機能 にじいろ（小規模多機能型居宅介護） 運営推進会議

事業所からの  
状況・活動報告

### <利用状況>

7月登録者数： 7名（男性 1名・女性 6名）

要支援1 - 1名-

要支援2 - 0名

要介護1 - 1名

要介護2 - 3名

要介護3 - 0名

要介護4 - 0名

要介護5 - 2名

通い・訪問でのご利用： 4名

連泊でのご利用： 3名

### <日中活動>

#### ●新規利用 A様（要支援1）

長男様より直接電話相談あり。

現在長女様と同居中。長女様が朝早く仕事に行かれ、夜は11時を過ぎるため、ほとんど一人の時間が多い。スーパーの総菜を長女様が用意し、本人が食べたいときに食べられたりと食生活が偏りがちであるため、食事をバランスよく食べてほしい。

円背であり足が出にくいいため、両手杖使用し歩行はできるが身の回りの事がなかなか難しいため、入浴や身の回りのことを支援してほしいと長男様の思いあり。

また、向かい側に長男宅あるが、夜間のベッドメイキングやおむつの準備などは毎晩長男様がされている。そこを訪問にてフォローしてほしいとの希望もあった。

本人様、長男様と相談し、毎週火曜日、土曜日の週2回入浴目的にて通いで昼食・夕食提供し、送迎時にベッドメイキングとおむつの準備。

月・水・木・金・日は毎夕訪問し、配食とベッドメイキング・おむつ準備をすることとなった。

歩行については今後、福祉用具を検討したいという希望もあった。

6/14～利用開始となったが、6/16に散歩中転倒し頭部裂傷5針ナートしたため、急遽次回受診日まで連泊利用となり対応した。



27日抜針し異常なし。

定期受診の際、医師より歩行状態、円背について指摘あり整形外科受診を勧められ受診する。

検査の結果、頰椎症の診断あり。生活の中でリハビリや運動をした方がいいでしょうとアドバイスあり、今後はリハビリや福祉用具について本人様、家族様と検討していく予定。

●新規利用 T様（要介護2）

A病院より相談

独居の方。5月に自宅で転倒され、肋骨骨折にて入院中。

横紋筋融解症、四肢体幹筋力低下、両股関節拘縮あり。両手杖にてゆっくり歩行するが、転倒リスクあり。

退院後は、一時にじいろ連泊としその間に体力回復と自宅の準備を行う段取りとし、特別訪問看護リハビリを導入し、理学療法士によるリハビリをにじいろにて連泊中2週間行う。その際に生活の中で気を付けること、歩行時の注意点などを本人への指導と、介護職員への指導やアドバイスもしていただいた。

利用時、要支援2だったため区分変更かけ要介護2へとなった。今月末長男様と相談し8月から、まずはお試しで一泊自宅へ帰っていただき、今後自宅での過ごし方など検討し必要な準備などを考える予定。

●新規利用 N様（要介護2）

包括より相談

4月に腎盂腎炎にて入院。もともととうっ血性心不全もあり在宅酸素療法中。少しの体動で呼吸苦・倦怠感強く、腎盂腎炎は治癒したが、心不全の症状のため膀胱留置カテーテル挿入し退院となるため、週2回入浴のため通い、家族不在の月・水・金に午前中・午後に訪問し、服薬確認、食事のセット、ポータブルトイレ確認、バルン管理、酸素管理など体調の管理を病院側からの指示であり、長男夫婦と相談し6/24～利用開始したが、本人が「自宅でゆっくり過ごしたい。」と強い希望があり、7/11で利用中止となった。

■質疑応答

Q（小林氏）：小規模多機能の特徴は何ですか。

A（杉森）： デイサービスとは違って、通い以外に訪問や、ご家族の希望によっては泊りもできる、ご利用者様のニーズに合わせて臨機応変に組み合わせができる、とても融通の利く事業所です。利用されているご利用者様の中には看取りをさせて頂いている方もおり、その方が定期的に自宅に帰られる時には訪問診療、訪問看護が入り、指示や助言を下さっています。

以前グループホームに入所されていた利用者様、その方のご主人が『自

